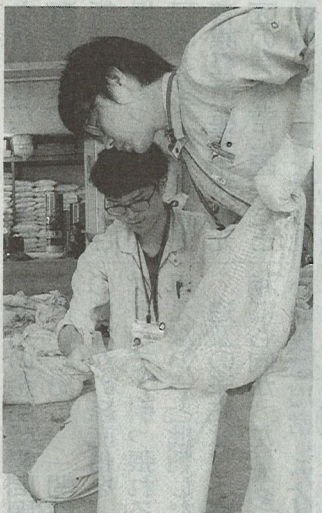


台風 早期の注意喚起

気象庁会見 異例の3日前

過去最強クラスの台風19号が12日夕方にも東日本を直撃する可能性が高まった。千葉県に甚大な被害をもたらした9月の台風15号での反省や教訓を踏まえ、首都圏では早期の対応が進んでいる。
(社会部 坂場香織、政治部 重松浩一郎、本文記事1面)



土のうを作る東京都葛飾区の職員ら(11日)

千葉被害教訓 首都圏で準備



「市民生活への甚大な影響が予想される。迅速かつ分かりやすい情報発信を徹底し、台風15号の経験も踏まえ、先手先手の対策を講じてほしい」。安倍首相は11日に開かれた関係閣僚会議で、こう指示した。政府は台風15号のときに関係閣僚会議を開かず、野党などから「初動が遅れた」との批判を招いた。今回、

■先手の対策

関係省庁の対応は早い。防衛省は関東地方の部隊を中心に自衛隊員約1万7000人が即応できるような準備。気象庁は大災害の危険がある台風が近づくと最接近の前日に開いている緊急記者会見を、3日前という異例の早さで行った。11日午後には東京管区気象台と関東地方整備局が初の共同会見に臨み、最大級の警戒を呼びかけた。

■東電も対応

JR東日本の計画運休の判断も早く、実施可能性の公表は最接近の2日以上前の10日午前のことだった。

■正常性バイアス

懸念もある。気象庁によると、記録を取り始めた1951年以降に日本列島に上陸した台風205個のうち、関東上陸は14個のみ。

大半は西日本に上陸している。また、「非常に強い」勢力の台風が本州に上陸すれば初になるという。昨秋の台風21号が上陸したのは4国だった。

15号の被害は記憶に新しいが、首都圏の多くの人が甚大な台風災害を経験していないため、危険が迫っているのに「自分は大丈夫」と受け止める心理状態「正常性バイアス」が働く恐れもある。東京女子大の広瀬弘忠名誉教授(災害リスク学)は「15号の影響で水や食料の確保などの備えを進める人もいるが、被災経験がない人は正常性バイアスのため避難しない可能性もある。台風19号は想像を超える被害が出る恐れがあり、早い段階で避難行動を取るべきだ」と指摘している。

8日 午後	首相官邸の危機管理センターに情報連絡室を設置 武田防災相が関係省庁による災害警戒会議を開催
9日 午後	気象庁が1回目の記者会見
10日 午前	JR東が計画運休の可能性を発表
11日 午前	JR東が計画運休の実施と詳細な時間・路線を発表
午後	気象庁が2回目の記者会見 2回目の災害警戒会議を開催 安倍首相が関係閣僚会議で「先手先手の対策」を指示 東京管区気象台と関東地方整備局が初の共同記者会見 品川区が区内5か所に避難所を開設

◆台風19号を巡る政府や各機関の対応

関東では過去、台風の襲来で海の潮位が上がる「高潮」や河川の氾濫が起き、広い地域で浸水被害に見舞われることがあった。20世紀半ばに護岸や堤防の整備が進んだが、専門家は台風19号でも同様の浸水被害が生じる恐れがあると指摘する。

気象庁は11日の記者会見で、台風19号で予想される雨量が、1958年9月の「狩野川台風」に匹敵する恐れがあるとの認識を示した。この台風では、静岡県伊豆半島を流れる狩野川が氾濫。神奈川県や東京都でも浸水被害があり、死者・行方不明者計1269人を出した。東京で記録

関東 過去に広域浸水

◆関東に被害をもたらした主な台風

	特徴・被害
1917年 9～10月 台風 (名称なし)	東京湾岸で高潮が発生し、住宅地が浸水。死者・行方不明者1300人超
47年 9月 カスリーン 台風	大雨で利根川と荒川の堤防が決壊し、埼玉県や東京都で家屋が浸水。群馬県、栃木県では土石流や河川の氾濫も。死者・行方不明者1930人
58年 9月 狩野川 台風	大雨で静岡県の狩野川が氾濫。神奈川県や東京都でも市街地の浸水や造成地の崩壊が発生。死者・行方不明者1269人
2019年 9月 台風15号	千葉市で観測史上1位の最大瞬間風速57.5m/sを記録するなど各地で暴風。千葉県を中心に最大約93万軒が停電し、住宅の損壊や断水も起きた

※気象庁資料などを基に作成

した1日あたりの降水量(58年9月26日)は371.9mmに達し、これまで最も多い。国土交通省などによると、17年(大正6年)9～10月の台風では、東京湾岸で高潮による住宅地の浸水があり、都内を中心に犠牲者が1300人を超えた。47年9月のカスリーン台風では、秋雨前線による大雨で利根川や荒川の堤防が決壊するなどして、死者・行方不明者が1930人に上った。

台風19号の接近が見込まれる12日～13日未明は、沿岸部の潮位が平時より高い「大潮」だ。柴山知也・早稲田大学教授(海岸工学)は「潮位が最も

(科学部 天沢正裕)